

1月26日(火曜日)

ドル/円

米金融新規制案を巡る不透明感残る

25日(月)の主な推移

ダウ平均株価

10196.86ドル
(+23.88ドル)

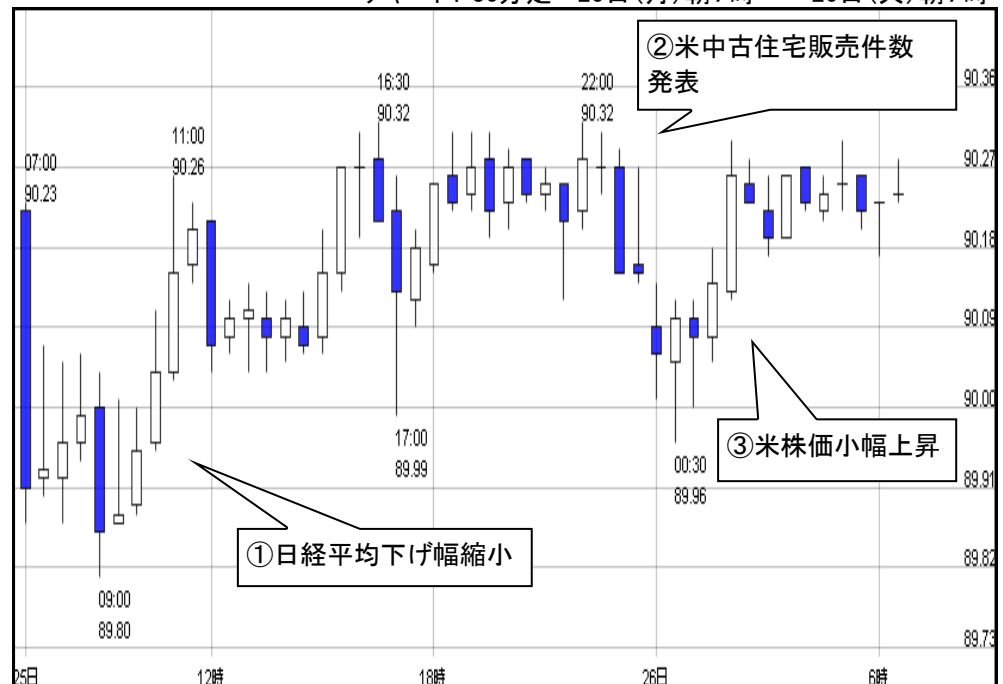
米長期金利
(10年債利回り)

3.6342%
(+0.0348%)

NY原油先物

75.26ドル
(+0.72ドル)

チャート: 30分足 25日(月)朝7時 ~ 26日(火)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

ドル/円は朝方に89.80円まで下落したが、22日に記録したほぼ1カ月ぶり安値89.77円には届かず。序盤に最大150円以上下落した日経平均が下げ幅を縮小するのに伴い、ドル/円は夕方に90.32円まで反発した。

②

12月の米中古住宅販売戸数が前月比-16.7%の年率545万戸となり、過去最大の減少率を記録。初回住宅購入者向け税控除措置の当初期限を控えて駆け込み需要が高まった11月の反動が出た。この発表を受け、ドル/円は26日未明に89.96円まで下落したが、バーナンキFRB議長の再任が議会で承認される見通しが強まったことや、米ダウ平均株価が過去3営業日で500ドル下落したことによる値ごろ感を背景に米国株価が底堅く推移したことで、ドル/円も90円割れ水準では底固く推移した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・日本の政局の混迷
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融新規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 89.65-91.10円

本日のドル/円は90円台前半を中心に新たな方向感を模索する展開となりそうだ。21日にオバマ米大統領が発表した金融新規制案への懸念は週初め25日の取引では一服した感があるが、同案についての不透明感は依然として残っており、ドルの上値を抑える要因として留意する必要があるだろう。同案の内容については、米国時間27日(日本時間28日午前11時)からオバマ大統領が行う一般教書演説における言及が注目されている。

テクニカル的には、昨日の取引で60日移動平均90.08円を終値でクリアし、一旦底固さが示された一方、5日移動平均水準には届かず、戻りの鈍さが示されている。本日は総じて材料に乏しく、動きづらい展開が予想されるが、午後6時30分発表の英GDP速報値や今夜発表の米経済指標が手がかり材料となるだろう。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/26(火)	未定	○	(日)日銀金融政策決定会合	—	—
	18:00	○	(独)1月IFO景況指数	94.7	95.1
	18:30	○	(英)第4四半期GDP・速報値[前期比]	-0.2%	+0.4%
	23:00	○	(米)11月S&P/ケース・シラー住宅価格指数[前年比]	-7.28%	-5.00%
	24:00	○	(米)1月消費者信頼感指数	52.9	53.5

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com